

# Tokyo Dental College Alumni Association

同窓会 案内

# 2024

東京歯科大学同窓会



同窓会は新進会員の皆様を応援していきます。



東京歯科大学同窓会  
会長 富山 雅史

長年にわたる学習や研修の成果が実り、いよいよ希望に満ちた歯科医師としての生活が始まります。明治28年に本学の建学者である血脇守之助先生は、歯科医師は生涯を通じて歯科医学と医療技術の研鑽を行うと述べており、共に学んだ同窓が助け合い、連携して、各地域の方々の健康の担い手として、社会に多大な貢献をしています。

皆様は卒業と同時に全員の方が同窓会の会員となります。さらに、卒業後5年目までは同窓会の新進会員となります。同窓会は新進会員の皆様が、素晴らしい歯科医師人生を歩むために、全面的な支援をしています。

新進会員が誰でも参加できる、若手支援のための症例検討会などを、同窓会において毎月開催しています。また、若手の会員のための卒業研修セミナーや、さらに高度な臨床セミナーも開催しています。さらに同窓会のホームページなどを通じて、新進会員の方の各種相談などにも対応しています。

皆様にはご自分自身で同窓会や歯科医師会などに積極的に参加され、日本の歯科医療を、さらに発展、充実されることを期待しています。



東京歯科大学ご卒業、おめでとうございます。  
すべての卒業生は、新たに全員東京歯科大学同窓会員となりました。  
これまで、歯科医師になるため、国家試験合格を目標としてきた君たちですがこれからは、良い歯科医師そして良き社会人になることを目的にしなければなりません。  
良い歯科医師は、なんとなく想像がつくかもしれませんが、「良き社会人」のイメージは持っていますか？  
私たちも同じ気持ちで卒業しました。  
そして、そこから一歩ずつ歩んできました。  
社会人として  
恋愛、結婚、家づくり、出産、子育て、趣味、生きがい、介護、近親者の死、子孫の繁栄そして古い  
歯科医師としても  
研修医、研究、教育、学位取得、就職、開業、卒業研修、そして社会貢献  
良いことばかりではなく、常に悩みは尽きません。  
収入、資金繰り、技術、患者さんやスタッフとのコミュニケーション、健康保険、自費診療、診療トラブル、医療訴訟、税金、労務関係 etc.  
それらを、1つずつ解決しながらも改めて「東京歯科大学卒業生」で良かったと感じる日が必ずやってきます。  
それは、真摯に誠実に社会に向かってきた多くの先輩方が築き上げてきた信用  
そして、血脇先生が標榜した「家族主義」に基づくものなのです。  
想像の中の10年後、20年後。  
必ず先輩方の経験が様々な形であなた方へ伝承されていきます。

さて、歯科大学の同窓会って何でしょうか。  
これまでの学校同窓会とは大きく役割が違います。  
仲間との絆を絶やさない目的ではありません。  
「歯科」という分野において歯科医師として業界を支えあう同志という位置づけ。  
そして、国民に最適で良質な歯科医療を提供するための社会的組織でもあるのです。  
古くは歯科医師国家資格の制定から、近年頻発する自然災害やこのコロナ禍においても、しっかりと日本の歯科社会を支えてきたのは、個人ではありません。目的を持った団体なのです。現代日本社会は責任の所在を明らかにするため必ず裏付けを求めます。何の表札や看板もない個人では地域医療や社会への貢献はとて難しいのです。  
そしてその歯科社会を過去もそして現在も牽引リードしているのは紛れもなく東京歯科大学同窓会なのです。  
遠くにあると思えた歯科界そして歯科行政も、実は東京歯科大学同窓であれば身近な存在になります。  
私たちは君たちへの最初のメッセージとして、共に130年余りの歴史と伝統を育み、母校後輩たちにしっかりと継承していくことを強くお願いしたいと思っています。  
新たなご入会、心から歓迎いたします。  
東京歯科大学同窓会 副会長 小枝義典 (S59 卒)



## 新進会員って？

### Q. 同窓会って何をしているの？

私たちの同窓会は、1895年（明治28年）6月「高山歯科医学院院友会」という名称で設立しました。単に同窓生が集まり親睦を深めるだけでなく、研究機関としての役割を期待し発行された機関誌は、現在の「歯科学報」に継承されています。



機関誌と歯科学報



初代会頭 高山紀齋先生 第2代会頭 血脇守之助先生

専門学校時代経て、戦争を乗り越え1946年（昭和21年）

11月現在の東京歯科大学同窓会になりました。

同窓会の事務局は水道橋校舎別棟にあり、会員の先生方や支部の現情報の整理、各種会議の準備など様々な事務処理を行っています。

近年の大きな災害に対して、被災地へ支援金をお送りしたり、新型コロナウイルス感染症対策の情報提供や「特別支部助成金」という形で各支部へ納入会費の15%を支給、準会員へも同様に助成（200万円）をおこないました。また、同窓会には7つの委員会があり、担当役員と委員が事業を行っています。（同窓会報の作製、学術セミナー、多方面で活躍する人材育成、ゴルフ大会等々）

### Q. 同窓会ってどうやって入る？

本学を卒業すると自動的に同窓会に入会します。入会手続き不要。退会規定はありませんから、生涯同窓会会員です。

### Q. 同窓会の会費は？

年会費

・準会員	本学在学中	会費なし
・正会員	卒後5年目までの新進会員	10,000円
	卒後6年目～10年目の若手の会員	10,000円
	卒後11年目～50年目の会員	20,000円
	卒後51年目以降は会費免除	

会費は各種事業を行うための事業費、同窓会会員への支援、大学への支援、事務局の維持費などに使われています。

### Q. どんな支援？新進会員であるメリットは？

A. 世代・地域を超えた同窓の交流など以下のような多くの支援を行っております。

新進会員のつどいは無料で参加できます。

東京歯科大学同窓会主催の各種セミナー、講演会等は、無料もしくは割引料金で受講できます。

他大学同窓会主催のセミナー等にも無料で受講できるものがあります。



2023年 新進会員のつどい

支部、地域支部で開催される学術講演会、保険講習会に参加できます。皆さんの生の声を支部長を通して本部に伝えることができます。80歳、100歳を迎えられるとお祝い金が贈呈されます。また、死亡時には弔慰金が支払われます（会費未納者には支払われません）。年4回発行の会報で、同窓会、クラス会、大学の情報がわかります。同窓会ホームページのメールBOXから質問、相談ができます。



ご卒業おめでとございます



著者：右から2番目

**Q 今の職場を選んだ理由は？**

私は現在、昭和大学歯科麻酔科に在籍しています。学生時代より口腔外科に興味があり、外科手術ができる口腔外科医になりたいとずっと思っていました。その後2年間慶應義塾大学病院で研修させていただいておりましたが、研修医2年目に麻酔研修があり、その際に麻酔科の役割を知り、術式を理解した上で麻酔計画をたて、安全に手術を終えられるように全身管理をする麻酔科の先生方の姿に憧れを覚えました。その頃口腔外科医としての将来に対し不安もあり、とても悩みましたが歯科麻酔科へ進むことを決意しました。昭和大学を選択したのは医科麻酔研修が充実しているからです。入局後2~3年間医科病院に所属して麻酔研修を実施します。歯科麻酔科とはいえ一生全身麻酔の管理をして生きていくのは一握りです。だからこそできる時にさまざまな歯科・医科手術を経験しておきたいと思入局しました。しかし母校でない場所を選択する不安はもちろん大きく、入局し半年以上が経ちましたがまだ東京歯科大学の先生、同期、後輩たちの温かみを恋しく思う瞬間は少なくありません。他大だからこそその新しい出会いも楽しみながら、安全に手術・全身管理ができるよう研修に励んでいます。

**Q 歯科医師となった生活はどうか？**

昭和大学歯科麻酔科では一般診療は一切行わず全身麻酔・静脈内鎮静法に専念できます。症例も多いので、麻酔手技を早く獲得できると思います。しかしそのぶん歯科医師としての技術に不安になることがあります。週1.2回の外勤で一般診療は行っていますが、同期のみんながバリバリ自費診療を行っているのを見ると今のままでいいのかと焦りもありますし、一般診療も難しく、思うようにいかずへこんでばかりです。今までのように机上で勉強するだけでは成り立たないこと、手技や知識のアップデートが常に必要なことを実感しています。先輩方や同期に教えていただきながら、今獲得しようとしている専門性を自信にしつつ、少しずつ歯科医師として成長し続けたいです。

## 先輩から卒業生の皆さんへ...

### 横尾 紗耶

126期生・令和3年卒

慶應義塾大学病院で研修修了。  
現在、昭和大学全身管理歯科学講座  
歯科麻酔科学部門 在籍

**Q 国試対策でやったこと、やればよかったことは？**

自分自身の勉強としては関連づけて勉強することを心がけていました。基礎科目・暗記が苦手であったためその場で考えられるように思考回路を作るようなイメージで勉強しました。例えば歯内療法を勉強している時に病態の組織像と一緒に見て組織と一緒にやったり、口腔外科を勉強するときに組織像やその発生、解剖、治療に使う薬の作用機序として生理、薬理と一緒に開いていたり科目にとられずに勉強することで限られた時間で広く勉強できたと思います。また、勉強班でのグループ学習も効果的であったと思います。私は班長をやらせていただいたこともありそこで班員に質問されたり、口頭試問をしたりすることで自分があやふやだった部分を発見したり、出題者側に立ち問題にしやすいのはどういうところかを学ぶことができました。はじめは「教える」という立場ではありましたが最終的にみんなの協力もあり、「教えあう」環境を作ることができ、勉強班の制度、班員のみんなにはとても感謝しています。

もちろん国家試験に合格しなければ始まらないですが、ゴールではありません。私は国家試験合格を目標にしていたためその後の目標が出来ず燃え尽き症候群のような時期がありました。認定医取得でも、形成ができるようになりたいでも何でもいいですが歯科医師になったあとの目標を持つことも大切であると思います。

**最後に**

最後までお読みいただきありがとうございます。麻酔科という歯科の中でも特殊な道に進むことに今も不安がなくなったわけはありませんが、これから長い歯科医師人生です。苦しみながらも楽しんで成長していこうと思います。皆さんの進路を考えるにあたり少しでも参考になれば幸いです。ご一読いただきありがとうございます。

臨床でお会いした際には是非いろいろ教えてください。

## 先輩から卒業生の皆さんへ...

### 浅井 七海

127期生・令和4年卒

東京歯科大学卒業後、  
東京歯科大学水道橋病院で研修修了。  
現在、東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座 在籍

**Q：国家試験対策でやったこと、やればよかったことは？**

国家試験対策は講義とその後の勉強班での学習がとても効果的だと思います。特に臨床の問題は勉強班みんなで考えることで、その周辺の基礎の知識にまで広げて頭の中を整理することができ、班員から新たな知識を得ることもあります。さらに、一人で勉強していたら周りが見えなくなって不安になったり焦ってきたりすることがあったかもしれませんが、仲間と勉強しているという一体感のおかげで頑張ることができました。また、勉強班の時間にはその日に講義された先生方が各班を回ってくださるため、講義内容に限らずその科目の疑問点を納得できるまで質問することができます。そこで理解を深めることにより単なる単語としての知識ではなく、臨床にも使える記憶として強く残ったと思います。国家試験対策に正解はないので、使えるものをフルに活用して自分に合った方法を早く見つけることが国家試験合格への近道だと考えます。

**Q：今の職場を選んだ理由は？**

私は学生時代に義歯、特にパーシャルデンチャーが一番考える要素が多くて難しく感じていました。そのため、大学卒業後には補綴をさらに勉強したいと考えていました。そんな中、私が5年生の時に祖父の入院先で歯科の訪問診療を見る機会があり、学生の単純な考えでもう少しやれることはないのかと疑問を持ちました。そこで登院実習中に訪問診療について数名の先生に相談させていただいたところ、歯科治療で特に義歯の治療ができるようになってからが良いとアドバイスをいただきました。また、私はたくさん手を動かして経験することで上達するタイプではないと自覚していたため、大学病院に残りじっくり考えながら診療に向き合いたいという思いがありました。以上の理由から、パーシャルデンチャー補綴学講座に入局することを希望いたしました。

**Q：歯科医師となった生活はどうか？**

パーシャルデンチャー補綴学講座の大学院生として在籍して1

ご卒業おめでとございます



著者：左

年目のため、臨床・教育・研究どれにおいても未熟で、日々学ぶことだらけです。臨床では、治療計画を立てることに最も苦戦しております。同じような欠損形態だとしても、患者さんごとに主訴や希望が違うため、一人一人に最適だと考えられる選択肢を提示しなければなりません。そのためには、学生時代の知識のみでは全く足りず、勉強しなければなりません。それに加えて、自分のできない治療は選択できないため、手技の向上も必要となります。そんな時、大学病院は積極的に学習できる環境が整っていますし、自分で解決できないことも講座内や他科の先生方にすぐ相談することができます。また、パーシャルデンチャー補綴学講座では教授が入局1年目に対して臨床手技（概形・精密印象採得など）に関する講義・実習をして下さいます。このように、日々大変恵まれた環境にいることを実感しております。教育に関しては、学生の講義・実習に参加します。3、4年生の講義は改めて基本的な知識を確認できるため、とてもありがたい時間となっています。実習では学生に説明することで知識の整理にもなり、逆に学生からの質問によって自分の知識の甘いところを見つけることができます。卒業して指導する立場になったのですが、まだ大学院1年目のため学生と一緒に成長しようという気持ちで講義・実習に臨んでいます。

**最後に**

講座に在籍してから半年以上が経ちましたが、毎日学びがあり、とても充実しています。研修医の先生の中には、大学院に残ると毎日診療をしている先生と大きなギャップが生まれてしまうと心配されている方もいるかもしれませんが、しかし、長い歯科医師人生のうちのたった4年の差は自分の努力で埋めることができる言われたことがあります。大学院だからこそできる経験や習得できることがたくさんあると思うので、焦りすぎず、自分のやりたい道に進むのが良いと思います。ご一読いただき誠にありがとうございました。

## 同窓会の交流

### 新進会員のつどい

新進会員のつどいでは、年齢の近い先輩の講演会、懇親会を企画しています。講演や対話による気づきと助言から、この会が若手会員の明日への確実な一歩を踏み出す機会となるはず。令和6年度も、新進会員の企画による会を開催予定です。



未来の歯科界を担う若手会員が、世代・地域を越えた同窓の交流を通じ、将来に向かって希望に満ちた道を進めるように、ニーズにあった支援を行っていきます。



近年は、コロナの影響もあり、WEB上でのオンライン講習会を開催しており、診療により参加が難しかった先生でも参加しやすくなっていますので、是非、ご参加ください！



2023年はWebとの併用で開催



## 同窓会の交流

### 会員活動推進委員会



本委員会は平成28年に創設された「女性会員活動推進委員会」を引き継いで活動して参ります。若手の会員・女性会員がより同窓会活動に参加しやすくするために、現状を把握し、今後の方向性を検討していきます。各支部の先生方と連携して情報を交換し、全国の先生方にそれらの情報を提供したいと考えています。また、「会員活動推進委員会」としての企画を立案し、若手支援ネットワークと同様に、若手の会員が同窓会をより身近なものに感じられるようにしたいと考えております。

# 日本歯科医師会

『新進会員の皆様へ ～日本歯科医師会の立場から～』

日本歯科医師会は1903年(明治36年)11月に設立され、今年で120年の歴史を重ねます。初代会長は高山歯科医学院(現在の東京歯科大学)創立者の高山紀齋、4、5代会長は血脇守之助になります。このように日本歯科医師会の設立、運営には本学のレジデント達が深く関わっています。1948年には社団法人日本歯科医師会となり任意加入の団体となっています。さらに2013年の公益法人改革により、「公益社団法人 日本歯科医師会」へと移行しました。現在は26代の高橋英登先生により会務の執行がなされています。

日本歯科医師会の目的は、都道府県歯科医師会及び郡市区歯

科医師会との連携のもと、歯科医学・歯科医療に携わる歯科医師を代表する公益団体として、医道の高揚、国民歯科医療の確立、公衆衛生・歯科保健の啓発、並びに歯科医学の進歩発達を図り、もって国民の健康と福祉を増進することとされています。



市ヶ谷 歯科医師会館



2040年を見据えた歯科ビジョン (日本歯科医師会、2020年10月)



歯科医療ビジョン (厚生労働省、2017年12月)

2040年を見据えた歯科ビジョン(日本歯科医師会、2020年10月) 具体的には、国がそれぞれの地域特性に合わせてその構築を求めている、これからの地域保健の在り方「地域包括ケアシステム」がその中心となります。地域で暮らす高齢者や障害者を支えていくために、中学校区程度の範囲内に住居、生活支援、医療、介護、介護予防といった機能を充実させていく概念です。そして「地域包括ケアシステム」における歯科診療所の役割として、従来の外来歯科診療の他に、訪問歯科診療の充実、病院・医科診療所等との医療連携、居宅、介護施設等における多職種連携といった機能の充実などが求められています。

現在、日本歯科医師会の会員数は約64000人となっています。全国に約10万人の歯科医師のうち、およそ85%が歯科診療所の開設者が診療所の従事者です。こうしたことから、日本歯科医師会は開業歯科医が主体の団体であり、国と直接交渉できる歯科関係の唯一の職能団体として、全国の歯科医師の声を国に届ける機能を有しています。

新進会員の皆様におかれましては、やがてご自身の歯科診療所を開設されることになるでしょう。そうなると、社会保険診療報酬は生活の糧として、最大の関心事になっていくことと思います。社会保険点数の改定が概ね2年に1回あることはご存知だと思いますが、この国では一体、誰がこの保険点数を決めているのか? また果たして適切な評価がなされているのか? きっと、様々な疑問が湧いてくることだと思います。日本歯科医師会は、日本歯科医学、日本歯科医師連盟と常に連携しながら社会保険点数改定に臨んでいます。特に、全国7ブロックから選ばれた社会保険委員会をはじめ、様々な委員会の先生から歯科医療現場の声を拾い、厚生労働大臣の諮問機関である中央社会保険医療協議会(中医協)等色々な協議会で発言し、現場の声が社会保険の点数に反映できるように努力しています。

若い先生達からは、「歯科医師会は一切何をしている団体なのかよくわからない?」とか「自分にはあまり関係の無い団体だし、加入しなくても開業はできるから、わざわざ高い会費を支払ってもメリットがないよね。」といった声をよく耳にします。果たして、本当にそうなのでしょうか?

歯科医師法 第一条には、「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」とあります。地域における歯科医療のみならず、公衆衛生活動に積極的に参加することは歯科医師としての責務と言えるのではないのでしょうか。 それぞれの地域で実施されている1.6歳児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査、妊産婦歯科健診、歯周疾患検診、後期高齢者歯科健診といった歯科健診事業、休日応急診療、小中学校・高等学校の学校歯科医による学校歯科保健活動へ参加するために、まずは地域の歯科医師会への加入が必要ですね。しかも、こうした公的な歯科保健活動には必ず給与等が歯科医師会を通じて支払われています。

また近年は、対応が難しい患者さんとのトラブル、医療訴訟等が増えています。こうした問題は先生が一人で抱えていても良い結果は得られません。歯科医師会の会員であれば、地域の歯科医師会や都道府県歯科医師会に相談することができるようになっていきます。また、大規模災害時には、被災した住民に加え、会員診療所の被災状況に応じて義援金を支払うなど、

さて、少子高齢化が進む日本社会では2025年に団塊の世代が全て後期高齢者となり、今後も益々高齢者が増えていきますが、2040年からは日本の総人口が減少し始めます。日本歯科医師会では「超高齢社会において歯科医療の果たすべき新しい役割と責任」について協議を重ね、歯科医療と口腔健康管理が「健康寿命の延伸」に貢献できるというコンセプトから、20年後の2040年を見据えた歯科医療のあるべき姿を描いた「2040年を見据えた歯科ビジョン」を2020年10月に発表し、その具体的な取り組みを実行しているところです。

それでは、今後の歯科医療提供体制を国はどのように構築しようと考えているのでしょうか? その答えが平成29年12月発表の「歯科保健医療ビジョン」に描かれてい

施設・業務別にみた歯科医師数、医師数

	歯科医師数 (人)	歯科医師数 (%)	医師数 (人)	医師数 (%)
総数	107443		339623	
診療所の従事者	104118	96.9	323700	95.3
病院の従事者	12329	11.5	216474	63.7
診療所の従事者	91789	85.4	107226	31.6
介護老人保健施設・介護老人保健施設等の従事者	34	0.0	3703	1.1
行政機関・産科・保健衛生業務等の従事者	385	0.4	4196	1.2

令和2(2020)年 医師・歯科医師・薬剤師統計の概況 部改変

歯科医師会には様々な機能により会員の先生を裏側から支えていくシステムが整っています。

新進会員の先生も多くは臨床研修期間を終了し大学から離れると、どうしても同窓会と距離を置いてしまう場合が多いようです。是非、地域の東京歯科大学同窓会支部に加入し、何でも相談してください。特に開業の際には周りの先生達の声を聞くことも大事だと思います。開業を斡旋する業者まかせでは、どうしても過度な設備投資になりやすくなり、経営の重荷になる傾向がみられます。

そして最後になりますが、地域の公衆衛生活動に参加し、歯科医師としての責務を全うするためにも、是非とも忘れずに地域の歯科医師会、都道府県歯科医師会、日本歯科医師会に加入していただければ幸いです。



日本歯科医師会 地域保健1担当 常務理事 山本 秀樹(S57卒)

【問い合わせ先TEL】(公・社)日本歯科医師会 会計・厚生会員課(厚生会員部門) TEL:03-3262-9323

# ご存知ですか? 「学校歯科医」

歯科医師は、歯学に基づいて傷病の予防、診断および治療、そして公衆衛生の普及を責務とする医療従事者です。



学校歯科医とは、学校保健安全法に定められている「大学以外の学校で、歯科健康診断や歯科保健指導、歯科保健教育などの職務を非常勤で行う歯科医師」のことで、歯科医師であるとともに教育者として学校のなかで、児童生徒の健康と安全を守るために、学校関係者・学校医・学校薬剤師・地域の方々と専門を超えた連携を取りながら活動をしています。

公益社団法人日本学校歯科医会は、文部科学省を監督官庁として、学校歯科保健活動を実施しており、その活動が、DMFTの減少など日本の予防医学に関与してきたことは大きく評価されています。さらに近年増加傾向にある児童虐待の早期発見、食べ方の支援による食育の推進、怪我の防止をする安全教育の充実などの取り組みも期待されています。学校歯科保健の目的は子供たちの「生きる力」を育むことです。

学校歯科医歴35年以上になる私の例ですが、開業後、すぐに地元・県・日本歯科医師会に加入し、その後小学校の学校歯科医に委嘱されました。私は小学校11年・中学校15年、現在は県立高校と私立の保育園を担当しています。公立学校の場合は市町村の教育委員会に、県立学校においては県の教育委員会がその委嘱を担い、私立学校の場合は、個別の対応となります。私の地元の歯科医師会では、市の歯科医師会が地元の学校を把握し会員の皆様にご担当頂いており、歯科医師会未入会

の先生方は、学校歯科医としては任命されていません。このように学校歯科医と歯科医師会は大きな連携があることがわかります。

口腔疾患と全身の疾患の関与が明らかとなってきた今、8020健康長寿社会を実現するためには、歯科口腔保健が大変重要です。小児期に身につけた正しい生活習慣が成人期、高齢期の健康につながり、口腔の健康のみならず、心と身体の健康を担ってくれるようライフコースアプローチという概念から学校歯科保健に取り組んでいきましょう。

卒後の皆様の歯科医師としてのライフコースに学校歯科保健が組み込まれ、次世代医療を担う「人間の生涯の大切な時期に直接関わる学校歯科医」として活躍されることを願っております。

日本学校歯科医会副会長 齋藤 秀子(S48卒)



## ◆学校歯科医のフィールドは広がっています。

- 学校歯科健康診断及び事後措置
- 健康相談
- 保健教育
- スポーツ歯科医学を通じた学校安全への参画
- 学校保健委員会・地域学校保健委員会での助言
- 養護教諭や学校担任との連携や助言
- 「食」教育の支援

歯と口に関する図画ポスターコンクール



日本学校歯科医会発行の情報発信



令和5年度 全国学校歯科保健研究大会



中学校での歯科保健授業



食育授業で生徒と一緒に給食



マウスガード作成事業は、花巻東・大阪桐蔭、智辯学園、新田高校の4校がモデル校です



<https://www.nichigakushi.or.jp>

## 先輩から卒業生の皆さんへ...

### 齋藤 哲哉

126期生・令和3年卒

東京歯科大学卒業後、  
慶應義塾大学病院  
歯科・口腔外科教室で研修終了。  
現在、静岡市立清水病院口腔外科 在籍



著者：2列目左

#### Q. 職場紹介

私は慶應義塾大学病院 歯科口腔外科教室にて、初期研修課程修了し、現在は静岡市立清水病院に出向し口腔外科医として勤務しております。埋伏智歯や顎骨嚢胞を中心に顎変形症、悪性腫瘍などの全身麻酔、局所麻酔、静脈麻酔での手術から口腔顔面痛、口腔乾燥などの口腔内科的分野まで幅広い領域を行なっています。

#### Q. 歯科医師となつてからの生活について

歯科医師となつてからは、研修医時代は歯科口腔外科の両方、現在は口腔外科で診療をしています。

大学卒業後は、『外科処置を自信を持って行える歯科医師となること』を一つの目標としていたので、初期研修では歯科と口腔外科を行える慶應義塾大学病院を選びました。意欲の高い同期や後輩たちと切磋琢磨し、様々な経験を持つ先輩方から様々な知識や技術を学ぶことができました。2年間で埋伏抜歯やインプラント埋入、歯周外科など様々な手術も執刀することができました。

現在の清水病院では、初診医を担当するようになったことや、医師の数が4人と研修医時代と比較し少ないことから、自分の診断や処置などの責任が大きくなったように感じますが、それと同時に手術や症例を多く経験できるようになったため、多くの知識や技術を習得しながら、それを実践する日々を過ごしています。清水病院は、救急対応もあるため、歯牙脱臼や骨折などの外傷に対する治療も行なっています。

また学会や勉強会などのへの参加もしやすい環境で、口腔内科学会での発表や論文執筆（現在執筆途中ですが）も経験することができました。

#### Q. 歯科医師となつてからの楽しいこと、困難なこと

自分が主治医として治療を立案計画実行し、それにより患者さんも満足できる成果が得られることや、自分にとってチャレンジングな治療がうまくいくことは嬉しいですが、その反面、自分の知識や技術不足により満足いく結果が得られないこともありま

す。縫合や切開ひとつとっても、縫合糸のテンションのかけ方や縫合針の刺入点の位置、メス入射角度など細かいことが創部離開などの予後不良の原因となってしまうこともあります。

そういった症例は、患者さんに対して申し訳ない気持ちになりますし、自分自身も、向き合ったり振り返るのはすごく気が重いです。しかし、うまくいかない症例から学ぶことが一番大切だと思います。なぜうまくいかなかったのかを自分なりに分析し、時には上級医に伺うなどすることで、同じ失敗を避けることができ、今後の成功に繋げることができると思います。

先輩の先生から言われた、『分からないこと・出来ないこと』を『知ること・気づくこと』が大切だ、という言葉が印象的で、今の自分もなかなかできていない部分もありますが、意識するようにしています。

#### Q. 学生時代にしておけばよかったこと

アルバイトなどで医療関係以外のジャンルに触れることです。大学時代は、私は何度かアルバイトはしていましたが、あまり多くなかったため、社会人となつてから自分の社会経験の浅さを痛感しました。卒業後から経験を積むことで徐々に補うことはできると思いますが、学生時代から経験していればもっと楽だったなと思います。

また、医療の世界だけに目を向けてしまうと狭い世界なので、視野が狭くなってしまうがちなので、視野を広げるためにもアルバイトに限らず様々なジャンルに触れることは大切だと思います。

#### 最後に

お読みいただき誠にありがとうございました。読んでいただいた皆さんの進路の参考になれば幸いです。

## 先輩から卒業生の皆さんへ...

### 倉島 竜哉

126期生・令和3年卒

東京歯科大学卒業後、  
東京歯科大学水道橋病院で研修終了。  
現在、東京歯科大学生理学講座 在籍



European Pain School での集合写真

#### Q. 今の講座を選んだ理由は？

大学院で本学生理学講座を選択した理由は、自分の興味のあることを勉強・研究できるからです。生理学に興味を持ったのは、生理学の講義で Nernst の式を習ったときでした。生体をシンプルな数式で表現できる美しさに感動し、イオンチャンネルなどの電気生理学の分野に興味を持ちました。参考書を読みながら Nernst の式を導出したり、微分方程式を独学して Hodgkin-Huxley 方程式の論文を読み込んだのはいい思い出です。

卒業研究は生理学講座で行い、卒業論文を執筆しました。卒業研究を始めてしばらくは全く上手くいかず、悔しい思いをしました。やっと結果が出たときに、後ろで見ていた渡川先生に肩をポンと叩かれたときの喜びは忘れられないでしょう。

歯学部を卒業し、臨床研修を修了したあとも生理学への興味は変わりませんでした。むしろ、生理学的知見から、未知の現象を研究・解明し、口腔顎顔面領域の医療をより盤石なものにしたいと強く思い、生理学講座への入局を決意しました。

#### Q. 歯科医師・大学院生となった生活は？

現在は象牙芽細胞のイオンチャンネルについて研究しています。論文を検索し、仮説を立て、実験し、仮説通りの結果が出たときの高揚感他では味わえません。一方で、仮説とは異なる結果が出たときに、何故そうなったのか・自分の仮説の何が間違っていたのかを考えることも研究の醍醐味の1つだと思います。講座の先生や大学院生とディスカッションをし、アイデアを出し合うのはとても楽しいです。また、本格的に研究をするようになって特に実感したのは、研究費の大切さです。研究費を使わせてもらっていることを忘れず、無駄や不正のないよう細心の注意を払い、緊張感をもって研究しています。

「せっかく歯科医師になったのになんで基礎研究なの」と言われることが何度かあります。基礎研究が今後多くの患者を救うための礎になることを想像していただければ、基礎研究の魅力は少しでも伝わると思います。現在目の前にいる患者を救うのが歯科医師の仕事なら、未来の患者を救うことが研究者の仕事だという信念を持って、日々研究に取り組んでいます。

#### Q. 新しくチャレンジしていることは？

<大学院について>  
学会発表や勉強会への参加を積極的に行っています。3月にオレゴン州ポートランドで開催された AADOCR/CADR Annual Meeting & Exhibition での学会発表を経験しました。初めての英語での発表・質疑応答で緊張しました。英語での質疑応答に苦戦し、悔しい思いをしましたが、大変貴重な経験でした。6月にはイタリアで開催された European Pain School に参加しました。痛みを研究している世界中の若手研究者と1週間生活を共にし、痛み研究に関するディスカッションとディベートを行いました。3月の経験を活かし、積極的に会話に参加することで多くの志の同じ友人ができました。非常に楽しくエキサイティングな時間を過ごしました。

#### <臨床について>

週1回、一般診療のアルバイトをしています。臨床では知識をすぐにアウトプットする瞬発力や患者に説明する文章力、処置の技術など多くのスキルが必要であり、苦闘しています。精進してまいります。

また、治療をしていてわからないことは先輩や友人に尋ねています。専門性を持つことの強み、そして相談に乗ってくれる友人・先輩の有難さを改めて感じます。

#### 卒業生の皆さんへ

ご卒業ならびに国家試験合格おめでとうございます。これからは社会的責任のある立場として、大小様々な選択をしていかなければいけません。本学で得た知識・技能・精神をさらに磨き、現在そして未来の患者を救うため、ともに研鑽して参りましょう。いつかどこかでお会いするときに、胸を張って「東京歯科の同窓だよ」と言えるように、私も精進して参ります。

# 同窓会の交流

全国ゴルフ大会



開催予定: 令和6年9月5日(木) (よみうりゴルフ倶楽部(東京都)) (参加申し込み詳細は、同窓会報6月号に掲載されます。)

# 情報の共有化

◎同窓会会報を  
年4回  
発行します



◎同窓会 HP・Facebook にて各種情報を共有しています。

同窓会  
ホームページ

<https://www.tdc-alumni.jp>

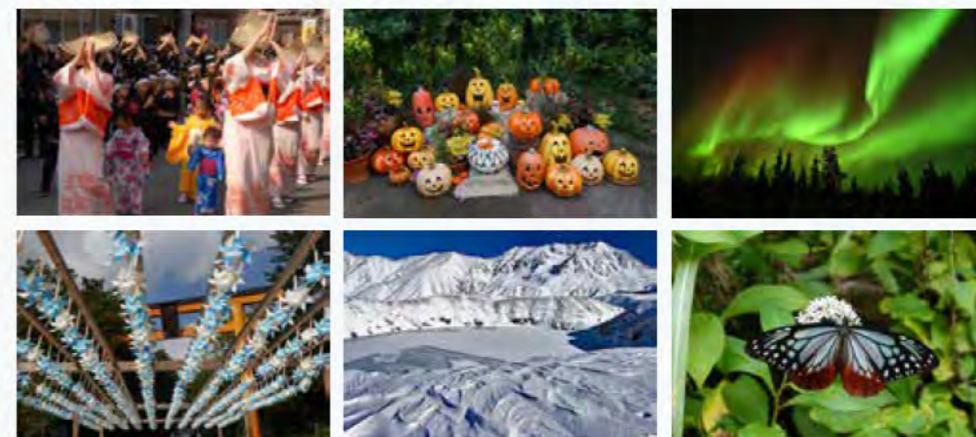


Facebook

<https://www.facebook.com/TDCalumni>



同窓会 Web ページのトップ画面



同窓会員からの  
写真投稿ギャラリー  
皆様の撮影した  
素敵な写真を  
お待ちしております。

同窓会ホームページでは、同窓会の活動内容や大学の最新情報も掲載しています。  
また、会員ページもあり同窓会員向けの情報が満載です。ぜひアクセスしてみてください。  
ログインするためには、ID とパスワードが必要です。

(9/10/2023) (随時更新・云報に掲載)



ご卒業おめでとうございます

## 先輩から卒業生の 皆さんへ...

### 高橋 右和

128期生・令和5年卒  
現在、東京歯科大学千葉歯科  
医療センターにて研修中



著者：2列目右

#### Q. 今の職場を選んだ理由は？

私は千葉県千葉市美浜区の生まれで、現在、臨床研修歯科医として働いている千葉歯科医療センターは実家から目と鼻の先になります。単純に通勤しやすいという理由もありますが、そのほかに大きく2つの理由があります。一つは自分の地元では患者様がどのような口腔内の悩みを抱えているのか把握できると考えたためです。将来私は歯科医師として、生まれた地に貢献できればと考えております。千葉歯科医療センターは地域包括ケアシステムの一環として様々な歯科医院から患者様が紹介されており、総合診療科では基本研修医が指導医の下、主治医として治療を行っています。現在、私も総合診療科にて日々診療しており、様々な悩みを抱えておられる患者様と接しています。これらの経験は将来地元で貢献するためにどのような技術や知識をこれから身に付けるべきかの指標とすることが出来ます。今後の歯科医師としての方向性の道標となる大変貴重な経験となっております。二つ目は私が登院生としてセンターを臨床実習した際、先輩方が臨床研修医とは思えないくらい堂々と治療を行っている姿を見て、憧れたためです。私が登院生として予診を行う機会があったのですが、その際、研修医の先生は現場に出て間もないにも関わらず、しっかりと患者様の対応をされており、自分で治療の方向性を決め、ほぼ指導医の先生の助けを借りることなく業務を行っておられました。その姿を見て自分もこのセンターで経験を積み、貴重な歯科医師一年目を過ごせるのではと考え、この職場を選択しました。

#### Q. 今の職場は？

私が業務している千葉歯科医療センターの研修医生活の魅力を少し紹介させていただきます。千葉歯科医療センターでの研修は4～9月と10～3月と大きく二つの期間に分かれます。どちらかの半年期間で総合診療科を、もう一方の期間では2ヶ月ずつ自分の希望した専門の科を3つ研修することが出来ます。総合診療科では前の期間で研修されていた先生の担当患者様を引き継ぎ、指導医の下、自身が主治医となり診療を行ってまいります。適宜予診にて来院された患者様を配当され、様々な患者様のお悩みに真剣に対応し、感謝される喜びを実感することが出来ます。専

門科の研修では総合診療科では経験することが難しい口腔外科、放射線科、小児歯科、麻酔科、インプラント科、摂食・嚥下リハビリテーション科など専門性の高い科を研修することが出来、貴重な半年間を過ごすことが可能です。その他にも様々な高名な先生方の講習会や勉強会を無料で受講することも出来、高額な顕微鏡を有するスキルラボもあり、自由に模型を使って実習することも出来ます。いい意味で大学附属の医療機関としては小規模であり、先生方との距離も近く、様々な専門性の高い先生方とディスカッションを行うことが可能です。このように歯科医師として重要な初めの一步として大変恵まれた環境にあると思っています。

#### Q. 歯科医師となった今について

私も現在、あと少しで総合診療科での半年間の研修を終えようとしております。初めは正直とても不安でした。全くの初対面の方に対して自分が責任を持って接すること、自分が実際に患者様のお口の中に手を加えること、全てに緊張した事を覚えています。実際初めて患者様の口腔内で歯を削る際は手が震えそうになったのを覚えています。他にも使う器具の場所もわからず、所属科の歯科衛生士のサポートがなければ用意することも出来ませんでした。それらの際に助けていただいた指導医や歯科衛生士の先生方には大変感謝しております。今では前述のようなことは無くなりました。出来ることもまだまだですが少しずつ増えてきたように思います。しかし、初めての時のように慎重に、緊張感をもって出来ているかと思うと疑問です。今後この初心と様々な方への感謝を忘れず様々な物事に動んでいくことが1番大事なことだと考えております。

#### 最後に

今回主に私の臨床研修歯科医生活について自由に書かせていただきました。様々な研修内容、研修生活がそれぞれの臨床研修歯科医にあるかと思えます。後輩のみなさんにとって、歯科医師国家試験は難関であり、今はそのようなことを考える機会も少ないかもしれませんが、1つでも参考になることがあれば幸いです。ご一読下さり誠に有難うございました。

## 先輩から卒業生の 皆さんへ...

### 平井 研吾

125期生・令和2年卒  
東京歯科大学卒業後、  
東京歯科大学水道橋病院で研修終了。  
現在、東京歯科大学小児歯科学講座 在籍



著者：中央

#### Q. 国家試験対策でやればよかったことは？

国家試験の対策では、基礎科目に力を入れて勉強をしました。特に、解剖学、組織学、生理学は重要と考えていました。その中でも私が好きだった解剖学に関しては、試験前に復習をしなくても良いレベルには仕上げていました。基礎科目の中で自信のある科目を1つ作るだけでも、気持ちに余裕はできると思います。対策の仕方は人それぞれですが、大切なことは、講義の内容をしっかりと理解することだと思います。講義の内容をすべて覚えようとする必要はなく、しっかりと自分なりに理解をして納得することが大切だと思います。もし、理解できないことがあれば、自分ですぐに調べたり、納得がいくまで考えたりすることが重要です。少し時間がかかり効率が悪く感じることもありますが、そうすることで記憶に残りやすく、それを積み重ねることで、国家試験や卒業試験など多くの問題に対応できるようになると思います。また、その力は、国試だけでなく臨床での対応力にも生きてくるはずで、それが、国家試験合格への一番の近道であり、対策だと考えます。

#### Q. 今の職場を選んだ理由は？

子供が好きという理由で入局した訳ではありません。むしろ苦手でした。学生の時は子供の考えていることが全く分からず、泣き叫ぶため、小児歯科の登院実習は非常に苦痛な時間でした。それでも、成長発達する中で絶えず変化していく口腔の管理を行う小児歯科という学問に興味を持ちました。一方で、小児は苦手ですが、子供の治療をする小児歯科の先生に憧れをもち、小児歯科への苦手を克服したいという強い気持ちもありました。また、大学院にも進みたいと考えていたため、大学院に残ることを選びました。以上が、今の講座を選択した理由です。健全な永久歯列の完成と小児歯科の発展を目指して、日々の診療と研究に取り組んでいます。

#### Q. 歯科医師となった生活はどうか？

私は、歯科医であると同時に、学位取得のため大学院生でもあります。臨床においては週に3日程度、大学病院の外来で診

療をしています。また、研究も同時にする必要があるので、時間の使い方に少し気をを使う必要があります。現在は、研究日が1日ありますが、それだけでは十分な研究ができないため、診療の合間や、診療後にも実験をする必要があります。そして、動物実験のため、自分の都合だけで実験を進めることができないため、どの研究にも言えることですが、計画性を持って行うことがとても大事です。しかし、常に忙しいという訳ではなく、趣味や遊びの時間も確保して、充実した生活を送ることができています。

#### Q. 歯科医師となって楽しさや困難は？

歯科医師になってからは多くの困難を感じています。普段は小児の治療をすることが多いですが、漫漶麻酔が効かなかったり、処置に時間がかかってしまったりして、患児を泣かせてしまうこともあります。また、自分の思い通りの治療ができずとても悩むこともあります。その中でも折れずに、どうしたら良いかを自分で考えたり、指導医の先生とディスカッションをしたり努力をするようにしています。すぐに結果は出ませんが、そのようにして知識を得ることで技術も少しずつ伴ってくと感じています。一方で、自分自身の治療技術の向上を実感した時や、不協力であった小児が上手にできるようになってくれた時は、非常に大きな喜びと充実感が感じられます。そして、笑顔で診療室を後にする患児たちを見ることで、やりがいを感じ、自信にも繋がります。

#### 最後に

私は東京歯科大学を卒業してから約3年半が経ちます。まだまだ知識も技術も未熟であり、分からないことばかりですが、課題を自分で見つけ、それを克服しようとするのは大変ですが、とても楽しいことでもあります。そして、日頃から指導してくださる先生には、いつも助けていただいております。大変感謝しております。また、他の講座にも大学時代の同期が在籍しており、自分の専門外のことも気軽に相談でき、恵まれた環境だと強く感じています。これからも、常に目標を持って、考えることを止めず、診療や研究に精一杯励んでいきます。

# 愛媛県支部からのメッセージ

同窓会の  
本部・支部の活動  
クラス会  
開催



2022年新人歓迎会の様子

ご卒業おめでとうございます。これまでに苦楽を共にされてきた同級生の皆さんや、学生生活を支えてこられた保護者の皆さん、教職員の方々と共にこの日が迎えられ、さぞかしお喜びのことと思います。

私たちは大学同窓会の地方支部の一つで、ボンジュースで有名な愛媛県にある東京歯科大学同窓会愛媛県支部です。四国の中の九州寄りの県で、柑橘類のほか今治タオルなども有名です。現在34才から91才まで57名が所属していますが、多くの会員は大学卒業後、大学や開業医での研修を経て、出身地に帰郷し診療所を営む開業歯科医です。

皆さんは同窓会というどんなイメージをお持ちでしょうか。学生時代に経験されたと思いますが、東京歯科大学には“みんなで頑張ろう、みんなで高め合っていこう”という空気がありますよね。それは同窓会も同じだと思います。愛媛県支部では、若手の先生に、と言っても30代～40代の先生たちですが、学術講習会、保険の講習会など普段の診療に役に立つ企画をしていただいています。新たに帰郷され、支部に入会された方がいると、若手の先生は歓迎会を開催しています。同級生ではないけれど、同世代の先生同士が懇意にできる良い機会になっています。ここ数年ほどはコロナ禍で中止になってしまいましたが、毎年夏には夏のレクリエーションとして、家族ぐるみの食事会なども企画され、家族サービスに一役買っています。

充実した活動を行っているのですが、このような活動を行うには欠かせないものがあります。それは“ひと”です。つまり同窓会会員です。特に若い先生に参加していただくと、同窓会活動がぐんと活気が出てくるのをいつも実感しています。

皆さんはご卒業という大きな節目を迎えられ、今後歯科医師となり、研鑽を積むにつれ沢山の同業の先生と、また社会人として異業種の方々と交流があると思います。どうかその交流に、同窓会というツールも使っていただきたいと思います。そしてより豊かな歯科医師としての人生を送っていただきたい。卒業生の皆様の益々のご活躍を期待しています。

東京歯科大学同窓会愛媛県支部



多くの支部では、学術講演会、保険講習会を開催して、

臨床や経営など様々な情報交換をしたり、会員・家族レクリエーションなどを開催し、会員の親睦を深めています。

また、同窓会では、卒後10年以内で初めてクラス会を開催する学年に支援を行っています。

# 同窓会ネットワーク

## 若手支援ネットワーク

新年度から、新たに歯科医としての一歩を踏み出す先生、研修期間を終了しさらにステップアップを目指す先生、大学院を修了し専門分野で臨床に励む先生、そろそろ開業を考えている先生など、其々の新しい環境でご活躍のことと思います。同窓会本部では、そのような若手の先生方からの相談や質問に対応できるよう、全国の支部、連合会とネットワークをつくりました。「先輩の診療を見学したいけど、どこに行けば良いのかなあ?」「出身地での開業を考えているけど、相談できる先輩がいない・・・」「歯科医師会ってどんな組織なのかな?」「同窓の先生方から直接生の声を聞いて勉強したい」「そろそろ結婚を考えているけど、子育てをしながら歯科医は出来るの?」「クラス会を開催したいけど、どうしたら良いの?」などなど・・・若い先生方の相談や質問の対応をすべく同窓会本部が同窓会員同士の橋渡しをします。昨今のIT 社会では、ネットから情報が簡単に検索できるようになりましたが、ネットの情報からだけでは解らないことを、現場の諸先輩と話してみませんか!

ぜひ、同窓会 HP にアクセスのうえ、Mail Box に必要事項を記載して送信してください! お待ちしております。(右図参照)

### 支援ケース対応例

#### 支援ケース1)))

[研修医より「来年度以降の就職先を探している」という相談について]  
 ⇒見学先の紹介  
 今後の進路について、地元、現住所、希望する専門分野(補綴、高齢者歯科など)に応じた診療所の見学を紹介

#### 支援ケース2)))

[初めてのクラス会開催について]  
 ⇒会則作成、会費支援、連絡先確認、同窓会説明などの支援(卒後5年目、10年目)

#### 支援ケース3)))

[県人会の開催]  
 ⇒地元の支部と交流をして、研修医が県人会へ参加

### ◎「同窓会通信掲示板」を設置いたしました!

同窓会では、会員の皆様とのコミュニケーションを円滑に促進するため「同窓会通信掲示板」を設置いたしました。

同期会開催について、災害被災状況、研修会そして就職情報などなど・・・

会員の皆様から直接情報を発信していただける場所にしたと考えております。

是非、以下へアクセスしていただき、ご利用いただければと思います。

<https://tdc-alumni.jp/bbs/>



\*閲覧は会員ページから。  
 ご投稿には、掲示板専用ユーザー登録をお願いしておりますので、よろしくお申し込み申し上げます。

## 若手同窓会員



**各支部  
 会員ネットワーク担当  
 若手の会員各支部担当**

本部と各支部が連携をとって対応します。

**同窓会本部**

相談・質問内容を確認し、適切な関係部署において対応します。

- ★氏名
- ★卒業年・在籍学年
- ★連絡先・方法
- ★質問・相談内容

若手ネットワーク MailBox のフォームに必要事項を記入して送信してください。

### 質問例

- ★関連病院・診療所見学について
- ★開業について
- ★歯科医師会入会について
- ★各支部・各地域の事業について

まず、同窓会 HP にアクセスします。

東京歯科大学同窓会 HP  
<https://www.tdc-alumni.jp>  
**「MAIL BOX」をクリック!**



QRコードからアクセス!!



トップページの「MAIL BOX ご意見・ご質問」をクリックし、「若手ネットワーク MailBox」へ入ります。

先輩から卒業生の  
皆さんへ...

## 江川 加奈

126期生・令和3年卒

東京歯科大学水道橋病院にて研修中。  
現在、東京歯科大学歯内療法学講座に在籍

著者：前列右

## Q. 今の職場を選んだ理由

研修医の時に根管治療をきちんと適切に出来る歯科医師になりたいという思いが強くなったからです。私が選んだ研修プログラムでは4ヶ月ほど地域の歯科医院で働く期間があったので、幅広く臨床の経験を積ませていただきました。レントゲン写真の撮影や印象採得、浸潤麻酔などの簡単なことから始まり、次第に鑲蝕処置や支台歯形成、抜歯などへとステップアップしながら経験を積んでいくカリキュラムだったのですが、その研修中に私が最も難しいと感じたのが抜髄や感染根管治療でした。はじめの頃は、まず根管口を見つけることすら苦戦し、髄角を根管口だと思ってしまった時もありました。根管口を見つけられてもなぜかファイルが入らず、指導医の先生を呼ぶと先生が一瞬で穿通してくれて、その続きを自分がやっていく...なんてこともあり、躓いた場面を挙げようと思うとキリがありません。根管治療が思っていた以上に難しいと痛感し、それと同時にしっかりと歯内療法ができる歯科医師になりたいという思いが生まれました。4ヶ月の研修を終えて水道橋病院に戻った後専門研修で保存科を回りながら、マイクロスコープを用いて精密な根管治療を実践されている先生方に感銘を受けて、歯内療法学講座への入局を決めました。個人の歯科医院でも根管治療を勉強できる場所はありますが、幅広い診療をこなしながら勉強するというよりは、一度腰を据えて歯内療法という分野に向き合いたいという思いが強く、今後認定医や専門医の取得も目指す可能

性を考えると、大学病院が一番良い環境だと考えました。

## Q. 歯科医となった生活はどうか

治療をしていて患者さんから症状が改善したと言われると嬉しいですし、もともと人とコミュニケーションをとることが好きな性格なので、人が多い職場で毎日患者さんと接する日々を楽しむや充実感を感じています。ただ、まだ治療が思うように進まないことも多く、落ち込むこともよくあります。落ち込むだけでは何の解決にもならないので、失敗の原因を自己分析して指導医の先生に相談することを欠かさないようにしています。

歯内療法学講座の医局員になってからは、研修医時代に感じていた数々の歯内療法学講座の疑問の答えが分かるようになってきました。マイクロスコープを使いながらの診療にも少しずつ目や手が慣れてきました。診療中に困った時は、呼べばすぐに講座の上級医の先生が駆けつけて色々教えてくださいました。分からないまま治療を進めてしまうことがないのが本当に有難いです。東京歯科大学の歯内療法学講座に入ることを決めてよかったとの底から思っています。また、大学に所属していると診療だけでなく教育や研究に携わる機会もいただけるので、それも自分の成長につながっていると感じています。

## Q. 後輩たちに伝えたいこと

大学で診療をしていると5年生がアシストについてくれるので診療の合間に話す機会があるのですが、よく進路相談を受

けます。私も学生のころ研修先をどこにするか、大学で働くか開業医で働くか、など沢山悩んだので気持ちがよく分かります。経験談としてお伝えできるのは、自分も周りも学生時代に決めていた進路とは別の道を選んだ人が多かったということです。研修医になってから考え方が変わることもありますので、今はふんわり自分が興味を持てる科をみつけられたらラッキーくらいの感覚でもいいのかなと思います。

また3、4年生の学生さんの中には実習で手先の不器用さに悩んでいる方もいるかと思う。私も不器用で実習進度が遅くいつも赤ランプをつけていました。今となってはその理由が分かっている、やっている作業の目的と、その作業の先の最終的な形態が分かっている、実習書の1ページだけを見て手を動かしていたことが原因だったのだと思っています。国家試験を終えるとある程度の知識が備わっているので、本当に歯科医師としてやっていけるか不安だった自分も、知識が手先の不器用さを補ってくれているのか、日々何とかやっていけています。治療の手技は経験で成長していく側面もあると思うので、不器用に悩まれている方もあまり絶望せず、前向きに勉強を頑張ってください。

## 最後に

ここまでお読みいただきありがとうございます。何かしら皆さんの参考になりましたら幸いです。私にとってもこれまでの自分の選択や歯科医師としての生活を振り返る良い機会になりました。4月に講座に入局してから10ヶ月が経とうとしていますが、毎日とても楽しいです。それは歯内療法という分野の面白さはもちろんのこと、指導して下さる優しい先生方や頼もしい同期の存在のおかげなので、これから講座に恩返しができるよう日々精進していこうと思います。

先輩から卒業生の  
皆さんへ...

## 藤島 彩加

128期生・令和5年卒

現在、亀田総合病院にて研修中

## Q. 学生時代やっておけば良かったことは？

私の学生時代は、大学が終わったあとは部活かバイトか遊んでいるかという、忙しくも充実した日々を送っていました。しかし1つ後悔している事をあげるなら、それは留学をすることです。中学生時代から密かに留学への憧れは持っていましたが、忙しいことを理由になかなか一歩踏み出せずに終わってしまいました。今からでもやろうと思えばできると思いますが、学生時代のような長期のお休みは基本的に無いので、自由に使える時間がたくさんあるうちに行っておけば良かったと思います。時間だけでなく言語力としても早く行くに越したことはないことは、留学している私の妹を見て感じてるので、やっておけば良かったと思いますが、今からでも機会を作れたら是非行きたいと思っています。

## Q. 今の職場を選んだ理由は？

私はいま亀田総合病院で研修医をしています。将来について真剣に悩んでいたのは5年生のときでした。周りの先輩にたくさん相談し、もっとゆっくり考えてもいいという意見を聞きながらも、せっかちな私はとても焦っていました。当時の悩みの内容は、自身水道橋病院で矯正治療を受けており、担当医に恵まれたことから、矯正に興味を持って登院を始めました。しかし補綴科に行った際、デンチャーをセットしたことにより審美的な面でも、機能的な面でも、QOLの向上を目の前にし、ここでもせっかちな私はとても魅力を感じました。

しかしその後口腔外科での顎変形症の手術を拝見し、これもやりたいと思いました。コロナの影響で手術室に入室して見学することは難しかったのですが、先生方に器具と気をつけるべき解剖学的構造などの説明を教えてくださいながら見れたので、とても勉強になり、興味を持ちました。最終的には、顎変形症のモデルオペに参加させていただいたことをきっかけに口腔外科に大きく気持ちが傾いたのですが、せっかくなので研修医期間、口腔外科一本に絞らず興味のある補綴科や矯正科も見たいと思っていました。そこで亀田総合病院は一般歯科、新患・急患、口腔外科、矯正・小児・訪問も経験することができ、顎変形症の手術に関しては、東京歯科大学では矯正科が行っている検査や分析、移動量の決定なども口腔外科で行っている症例もありとても魅力的に感じました。また研修終了後は東京歯科大学口腔外科への大学院入学も検討していたため、東京歯科大学出身の先生がいるところでの研修と、当直も経験したいと思い、亀田総合病院を選びました。



著者：前列右

## Q. 新しくチャレンジしていることは？

一人暮らしです。私は25年間ずっと実家暮らしをしており、恥ずかしながら、家事など気が向いた時にほんの少しの手伝いしかしたことはありませんでした。またうちは4人兄弟な上に犬が2匹もいるので、うちの中は常に賑やかでお祭り騒ぎでした。研修医になってから生まれて初めての鴨川での一人暮らし生活が始まり、節約生活を始めたことでほぼ毎日お弁当を持って出勤しています。まだ人に見せるようなお弁当作りまでの成長はできていませんが、1日3食365日のご飯を考えるのはなかなか大変だと痛感しながらも毎日つづけています。また、とても静かなので、自由に勉強する時間が増えました。担当された患者の治療計画立案では、全顎的な治療を必要とする患者が多いため、補綴や口腔外科にとどまらず皆さんのことを学んでいます。論文を読む時間を作ったり、学生時代には勉強しなかった具体的な手技の勉強をしたりと、自分の学びたいことに時間を使えるのでとても充実しています。

## Q. 後輩に伝えたいことは？

前述したように私はせっかちがゆえに、5年生で大体の進路を決定してしまいました。私は一度に二つ以上のことはなかなか考えることができず、楽しい方、考えたい方を優先してしまうため、おおまかにも先に決定しておいて良かったと思っています。「この先の人生で大事なことから時間をかけて考える」こともできましたが、焦っているからこそ登院のときにはどこに行っても興味を持ち、先生方にたくさんお話を聞き、学べましたし、6年生のときには安心して勉強に集中できたと思います。焦って無理に決めるのは後悔に繋がってしまうかもしれないですが、自分が本当にやりたいことを早めに見つけて、自分の納得いく将来を創造できたらより充実した学びを得られるのではないかと思います。

# “TDC Academia”

## アカデミアの理念

『歯科医師たる前に人間たれ』の建学の精神を基本に、人間味豊かで、社会性のある人材育成をめざす総合的な生涯研修の場“アカデミア”をつくり、臨床から地域保健、医事に通じた国手となるための一貫した理念に基づいた事業展開をめざすものです。全国の同窓が次代を担う後輩たちへの支援や連携の輪となることを期待しています。



同窓会創立120周年を機に新たな同窓会の一つの役割としてアカデミア構想をスタートさせました。これは同窓の生涯研修のために集える場であり、そこには研修事業もあり、歯科医師像の議論もあり、学術や医療制度情報の交換・提供もあり、先輩後輩の交流もあり、全国離れた地でもいろいろ新しい形に発展していくことを願った構想で、究極するところ120年の歴史で培われた社会性をもった歯科医の育成そして歯科界の発展を目指したものです。

●東京歯科大学同窓会は、会員相互の親睦並びに福祉の増進を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的としています。そのために、同窓会員に対する学術的支援、困ったときの支援、各種情報の提供、さらに大学への協力などを行っております。

●本学の学生も「準会員」となり（会費等はなし）、また卒業5年目までは「新進会員」として、さらに卒業10年目までは会費等も軽減されます。

最近特に卒業直後の若手会員の支援に力を入れております。

- 世代・地域を超えた同窓の交流** (総務・厚生部、広報部)  
ネットワークやいろいろな企画を通して先輩後輩の交流をひろげます
- 情報の共有化** (総務・厚生部、広報部)  
全国どこでも、だれでもが同じ恩恵を受けられるような情報化を目指します
- 学術事業** (事業推進部)  
歯科医学的課題 医学の知識や技術など純粋な学問としての研修  
歯科医療的課題 社会を意識した歯科医療人を目指した研修
- 制度のプロフェッショナルづくり** (渉外部)  
大きな視点で考える人材、動かしていける人材を育てます

## ～TDCアカデミア構想～

TDCアカデミアは「臨床セミナー」「卒後研修」「医療教養」の3つの柱から成り立っております。

「臨床セミナー」を通じて個々の技術や知識を習得する。  
「卒後研修」にてどのような患者にどのように活かしていくかを疑似体験し臨床の幅を広げる。  
「医療教養」では患者さんや社会から望まれる歯科医師像を構築する。

そしてそれらを『生涯研修』として先生方にお届けします。ハイブリッド開催により「対面受講で学習効果を上げる」「Web受講で気軽に参加できる」を選べることも特徴です。



**臨床セミナー**・・・毎年さまざまな実習型と聴講型のセミナーを企画しています。基本手技から専門的知識・技術、先進医療などを習得でき、臨床レベルの向上につながります。ベーシックハンズオンセミナーでは支台歯形成、テンポラリークラウンの作成、MTMのワイヤーベンディング、豚顎を用いて抜歯・FOPなどを一度に学ぶことができ非常に好評です。皆さまのご参加お待ちしております！

**卒後研修**・・・症例検討型の勉強会です。さまざまな症例を疑似体験すること、自ら発表するスキルが学べます。その中で情報収集と記録、診査診断、治療計画、実際の治療方法、予後予測など、生涯研修の基本を身につけることを目的としています。日常臨床の基礎を学び、臨床対応の選択肢を広げることができます。

**医療教養**・・・『歯科医師たる前に人間たれ』社会性や歯科医療倫理観を高めることを目的としています。患者さんや社会から望まれる歯科医師像をめざすことを目標とし歯科医療的課題について共に研鑽することもできます。



# 組 織



同窓会には、9,000人以上の会員がいて、全国各地および大学に合計107支部がおかれ、同窓会員は原則いずれかの支部に所属することになります。

新進会員については、所属する支部が決まるまでの期間は本部直属扱いとなります。

また、全国11の地域別に地域支部連合会がおかれ、地域内の支部の連携を密にして、同窓会の発展に関する協力機関となっています。さらに、同窓会本部には、会長、副会長、専務理事、理事、監事が置かれ会務を執行しています。このように、支部、地域支部連合会、同窓会本部と3層でそれぞれ活動しながらも、常に連携のとれた同窓会活動を行っています。

## ◆ 同窓会本部 役員構成

会 長  
副 会 長(5名)  
専務理事  
常任理事(9名)  
理 事(11名・地域選出)  
監 事(3名・うち常任監事1名)  
顧 問(2名)

## ◆ 同窓会本部 委員会構成

### ①常置委員会

【総務・厚生部】 総務厚生委員会  
ゴルフ大会委員会  
新進会員のつどい実行委員会  
会員活動推進委員会

【渉外部】 渉外委員会

【広報部】 広報委員会(会報・HP・ネットワーク)

【事業推進部】 学術委員会(卒業研修  
(臨床セミナー)  
(医療教養)

### ②特別委員会

### ③地域支部連合会

【選挙管理委員会】

北海道地域支部連合会 【10支部】  
東北地域支部連合会 【6支部】  
関東地域支部連合会 【16支部】  
東京地域支部連合会 【39支部】  
信越地域支部連合会 【5支部】  
東海地域支部連合会 【4支部】  
北陸地域支部連合会 【3支部】  
近畿地域支部連合会 【6支部】  
中国地域支部連合会 【5支部】  
四国地域支部連合会 【4支部】  
九州地域支部連合会 【8支部】

大学  
大学支部  
\*各支部への連絡先は同窓会本部  
(TEL 03-6261-6631)にお尋ねください。

- ◎ 東京歯科大学同窓会主催の各種セミナー、講演会等は、無料もしくは割引料金で受講できます。
- ◎ 新進会員のつどいは無料で参加できます。  
(他大学同窓会主催のセミナー等にも無料で受講できるものがあります。)
- ◎ 支部、地域支部で開催される学術講演会、保険講習会に参加できます。
- ◎ 皆さんの生の声を支部長を通して本部に伝えることができます。
- ◎ 80歳、100歳を迎えられるとお祝い金が贈呈されます。  
また、死亡時には弔慰金が支払われます(会費未納者には支払われません)。
- ◎ 年4回発行の会報で、同窓会、クラス会、大学の情報がわかります。
- ◎ 同窓会ホームページのメールBOXから質問、相談ができます。

## 【同窓会員のルール】

- ◎ 支部に所属します。
- ◎ 年度会費は、期日までに支払います。
- ◎ 住所、勤務地の変更等は、必ず届出ます。

## 【同窓会事務局からのお願い】

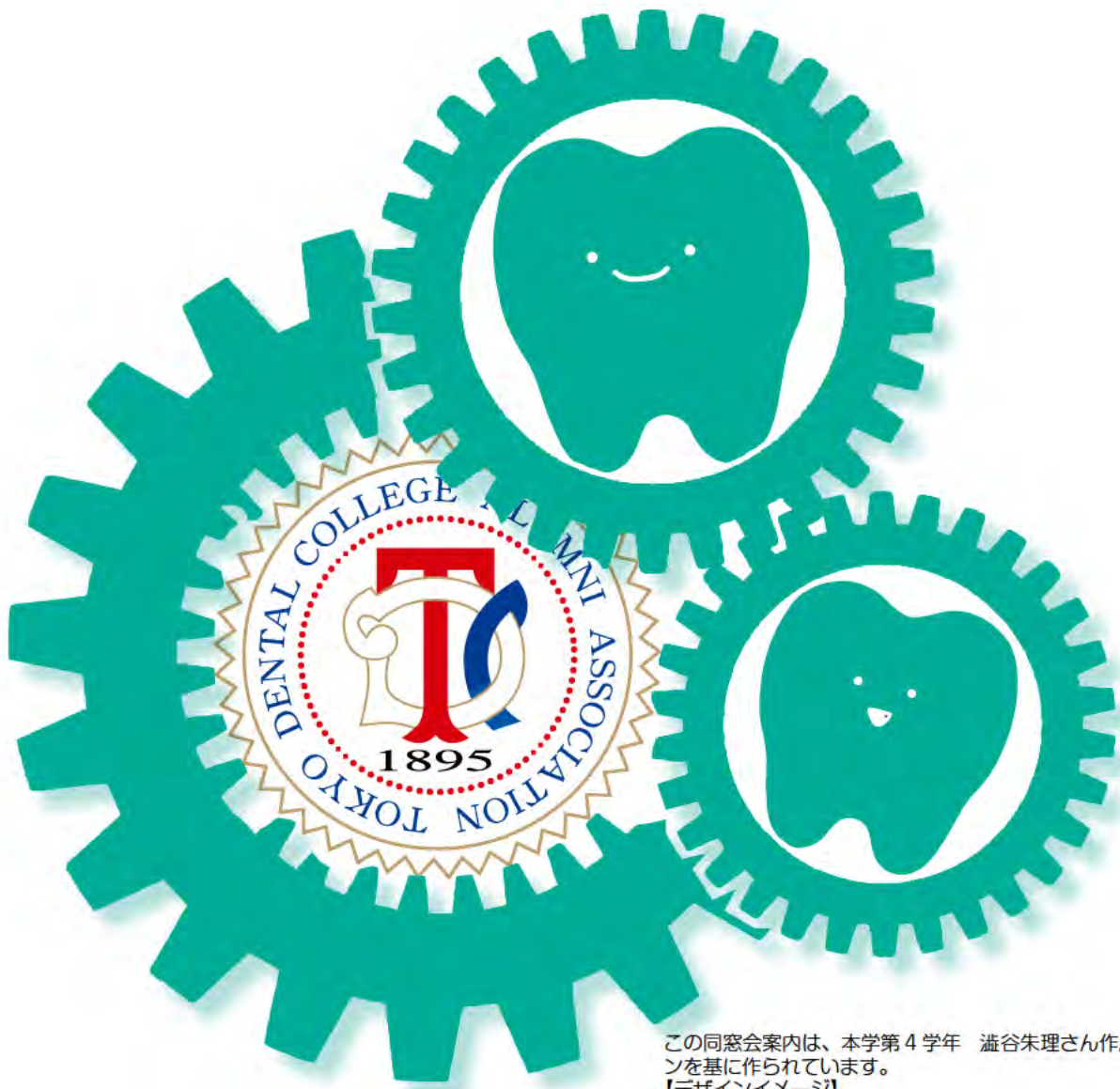
- ◎ 事務局は毎週土曜・日曜・祝日はお休みをいただいております。  
なお、電話での対応は平日9:30~17:30とさせていただきます。ご協力お願いいたします。
- ◎ 事務局では、ご質問に対して正確を期すため、すぐにお返事ができない場合もあります。ご了承ください。

## 【会費】

- ◎ 同窓会費 年額 20,000円  
(卒業10年目までは年額 10,000円)
- ◎ 同窓会費は各支部にお支払いください。  
銀行口座からの自動引き落としも可能です。
- ◎ 「新進会員」は本部に直接お支払いください。
- ◎ 東京歯科大学の勤務・大学院生は、大学支部を通じてお支払いください。  
なお、支部、地域支部連合会によっては、別途、支部会費、地域支部連合会費が必要な場合もあります。  
詳しくは、各支部にお尋ねください。

## 【入会後の諸手続についてよくあるご質問】

- Q1) 新進会員です。近く転居します。手続は必要ですか。  
住所、氏名等登録事項変更届を同窓会事務局に提出してください。
- Q2) 現在勤務医です。支部に所属していないので、支部に所属したいと思います。  
手続き方法を教えてください。  
勤務地または居住地の支部に所属することになります。  
支部長に連絡をしてください。  
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。
- Q3) 勤務医です。新進会員の5年間が終わります。何か手続は必要ですか。  
支部加入手続が必要となります。Q.2を参照してください。  
(新進会員期間終了後は必ずいずれかの支部に所属します)
- Q4) 勤務医です。勤務する地域の支部に所属しています。今度、開業することになりました。  
支部移動の手続き方法を教えてください。  
新しく開業する地域(または住居地)の支部長に連絡してください。  
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。
- Q5) 現在、歯科の仕事から離れています。支部に所属が必要ですか。  
離職等により、勤務地がなくなった場合でも、住居地の支部に所属します。  
住居地の支部長に連絡してください。  
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。



この同窓会案内は、本学第4学年 瀬谷朱理さん作成のデザインを基に作られています。

【デザインイメージ】

2023年東歯祭では、「歯車（ギヤ）」～個性と個性の噛み合わせ～というテーマで開催されました。先輩たちが絶やすことなく回し続けてきた「歯車」を引き継ぎ、個性と個性が噛み合った時、その力は無限大になる・・・という思いが込められているそうです。

同窓会では、若い先生方のさらなる飛躍を支援していきます。

## 東京歯科大学同窓会 東京歯科大学同窓会事務局

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

[水道橋校舎 別棟 6階]

TEL:03-6261-6631  
(9:30-17:30 土日祝休み)

FAX:03-3264-4859

<https://www.tdc-alumni.jp>

